

# 共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【茶、九州農政局】

鹿児島県 あおぞら農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7）

- 老朽化したせん茶加工施設に国内外で需要の高いドリンク原料用茶・てん茶の製造ラインを整備することで合理化。
- 当該施設の合理化を核として、ドリンク原料用茶及びてん茶の需要に応じた生産を促進し、低コスト生産や単価向上を通じた収益性の向上を実現することで、生産者の意欲向上が期待。産地規模の維持・拡大を図る。

## 現状・課題並びに再編集約等の内容

### 【産地の現状・課題】

- 近年、茶価の低迷や高齢化等による離農が進み、茶産地としての維持・存続が危ぶまれる状況の中、既存のせん茶加工施設（H14整備）は収益が上がらず、老朽化により補修等の維持管理の負担が大きいという課題があった。

### 【再編集約等の内容】

- 国内外ではドリンク原料用茶及びてん茶の需要が高く、また、当該地域では有機栽培やIPMの取組も盛んであったことから、ドリンク原料用茶及び輸出仕向けのてん茶を製造するハイブリッドラインを整備することで、既存工場の合理化・機能向上を図る。



＜新たな製造ラインを整備する茶工場＞

## 再編集約・合理化等で期待される効果

- ドリンク原料用茶及びてん茶の需要に応じた生産により、低コスト生産や単価の向上を通じて収益性が向上し、生産者の意欲向上が期待される。
- また、取引先の要望に対応可能となり、契約取引による経営安定化が図られる。
- さらに、茶工場の処理能力向上により受入数量が増加し、産地規模の維持・拡大が図られる。



＜ドリンク原料用茶園＞



＜てん茶向け被覆栽培＞

## 他産地へのメッセージ

- 再編新事業では、既存施設を活用することにより、新設よりも負担を大きく軽減して事業に取り組むことができた。
- 施設の合理化に加え、産地内にある他の荒茶工場（2施設）から荒茶製造の機能を再編集約した当該施設を活用して、産地規模の維持・拡大を図っていく。